



片目のやんちゃ天使、正太郎

ある日、友人からメールが来た“片目がない子猫が里親を探しています”と。

最初は、誰か里親さんになってくれる人を探すつもりだった。普通のお家に生まれた子猫の一匹だと思ったからだ。

可愛い仔猫だけれど、片目が無いのは難しいだろうなあ〜と思いつつ、詳しい話を聞きたくて、先方に連絡を取ってもらった。

瞼が開かないだけで眼球はあるのか？それとも眼球が無いのか…。病院で診てもらっているのか？どうして生まれたお家で飼えないのか？今は母猫といるのか？

わからない事ばかりだった。

直接メールをやり取りする様になってわかったことが、繁殖施設で生まれたマンチカンで、今は母猫と兄弟と一緒にいる事。兄弟猫はもう行き先が決まっていて、あと数週間で親と離れてしまうらしい。障害を持って生まれた子は、行き先が決まらないので、誰かに貰って欲しいという訳だった。

ブリーダーの事はよく知らないが、どうして自分が育ててやらないのか？と聞いてみた。返事は“成猫を置いておく場所がないから…”、という事だった。そんな返事にも違和感を覚えた。

病院に連れて行ったのか？という問いにも“何もしていない”と、普通に返事が返ってきた。理解出来ない…と思った。少し具合が悪そうでも、慌てて病院に行くものだと思っていたからだ。（あくまでもメールだけの会話なので、ニュアンスが伝わり難い事はあると思う。）

そんな所に里親が見つかるまで置いておけるのか？私は胸が苦しくなる思いだった。急がないといけなと感じた。大丈夫かもしれないけれど、ただただ急ぎたかった。

しかも里親さんが誰でもいい...というわけじゃない。障害のある仔猫だから、どんなに病院通いになるうとも、ちゃんと最後まで見てくれる人でなければ！

そして決断したのが、“私が引き取ろう！”
既にその片目のマンチカンが頭から離れなかった。

生れたのが6月16日。他の兄弟はお盆前に親元を離れていくと聞かされた。私はシッターなので、お盆は忙しく付いていてあげられないから、お盆明けにしようかとも思ったが、何だかそれでは遅いような気がした。

お盆1週間前、この時期を逃せばお盆明けになるから、少し早いけれど連れてこようと決め、先方と都合を合わせて迎えに行った。

聞いていた住所に着いて連絡すると、片手に小さな仔猫、片手に頼んでいたトイレ躰用のウンチと仔猫ご飯を持った方が出ていらした。仔猫ご飯を持たせてくれるのだから、この子の事を気に掛けておられると思った。

初めて正太郎を見た時、一番に思ったのは、“ちっちゃい！！”2ヶ月位の仔猫の大きさではなかった。きっと小さく産まれたから障害があるのだろう...。わからないなりにそう信じた。あり得る...と。連れ帰る間も大人しい穏やかな子。とても可愛いらしくて、両目が揃っていたら引く手あまたなイケ仔にやんでした。

家に帰って、“さあ！今からここがお家だよ！”とキャリーを開けたけど、ちまっと動かない。突然お家と言われてもなあ~と思うから好きにさせていた。しばらくすれば、仔猫の好奇心がモクモクしてきて探検を始めるはず。それが普通だから、最初に大人しいのは気にもしていなかった。

ところが、着いた時から夜になってもトロトロと寝てばかりの仔猫。気になったのが、初めてしたうんちがピーピーのうんち。これは今日からの下痢じゃないな...というのは、はっきりしていた。

次の日、そのうんちを持って動物病院に連れて行った。先生のお話は...

消化不良で極度の下痢。脱水症状も出ていて危険な状態だったのだ。メールでは“元気でモリモリ食べてますよ”と聞いていた、元気なはずなのに何故...

点滴、注射とお腹の薬。その日から、嫌がる正太郎の口に薬を混ぜたご飯を入れて、少しでも自分で食べてくれないかと、祈るような日々がしばらく続いた。食べないと元気になれないんだよ...と、言い聞かせた。自分から食べようとしなから、口にご飯を押し込む様な“お食事タイム”。辛かった...

何日かして、やっとうんちが普通になり、猫ミル

クなら自分で飲むようになって、先輩猫に怯えながらも興味津々。優しい男猫、健三郎には後を付いて歩くようになった。ご飯も少しなら自分で食べて、小さく万歳した。

その頃から、今度はやたらと頭を振るのが気になり出した。耳の中を見ると、真っ黒のヤニがびっしり！これは！！

検診を兼ねて病院に行っ、診てもらおうと...、やっぱり“耳ダニ”。母猫と一緒にいた時に貰ってきたのだ。それから一か月、耳掃除に通っている間に、体重が340gだったのが、500gを超えて大喜び。

いま正太郎は7ヶ月。体重も2.5kgになった。標準よりは小さいけれど、短い脚は立派に太くなった。いっばしにジャンプも高く飛べるようになった。

放っておいたらいつまでも食べる大食漢で、今度は太らさないように気を揉む日々がやってきた。ご飯を目の前に置いても、“いらにゃ〜い、プイ...”と横を向いていた仔猫はどこへ行ったのか...

優しい男猫、健三郎を猛ダッシュで追い回し、大胆にも淳之介社長に挑みかかり、怖いお姉さん、佐和子が“シャー！！”と言おうが我関せず...、の毎日。

今日も正太郎は行く！！！！

誰も正太郎を止める事はできない！
行け行け、どこまでも行け正太郎！！
池波正太郎さんから頂いたお名前。
大物になりそうな予感。

追記、

決して繁殖施設だけを悪く言うつもりはありません。

買う人がいるから、そういう仕事があるのです。

需要と供給の関係なのです。

流行りの仔猫は可愛いと思います。

そういった仔猫に目が行くのもわかります。私だってそういう子たちも可愛いと思います。

でも、和猫である日本独特の猫たちは、“雑種”と呼ばれ、捕獲された野良猫たちは毎日“殺処分”されています。産まれてすぐの仔猫も例外ではありません。

日本の法律は、未だに野良は遺失物...、“物”なのです。保管期間が過ぎれば処分されるのです。

お願いがあります、猫を飼いたいのであれば、行き先のない猫を引き取ってあげてください。ちっちゃ

くて可愛い仔猫も、里親を探している事もあります。大きくなったけど、性格のいい子もいます。物ではなく、私たちと同じ“命ある、この世に産まれてきた仲間”です。

もし！！！！！！

猫を飼ってみようかな...、と求めてくださる方がいらしたら、ぜひぜひご連絡下さい。ボランティアをされている方は、いつでも里親探しをしていらっしやいます。

猫好きにはどんな猫...なんて関係なくなります。我が家に来てくれる猫が、最高の“うちの猫”なのです。

一度猫を飼ったら、きっと猫好きになりますよ。

お猫様に毎日感謝！

2015. 1. 26